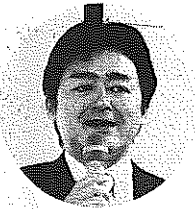


大阪で速乾印刷実演セミナー

アグファ あさひ高速印刷の協力で開催

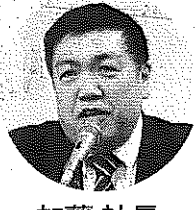
日本アグファ・ゲバルト(株)(松石浩行社長)は5月14日、あさひ高速印刷(株)(本社/大阪市西区、岡達也社長)協力のものと「速乾印刷実演セミナー」を開催した。



岡 社長



松石 社長



加藤 社長

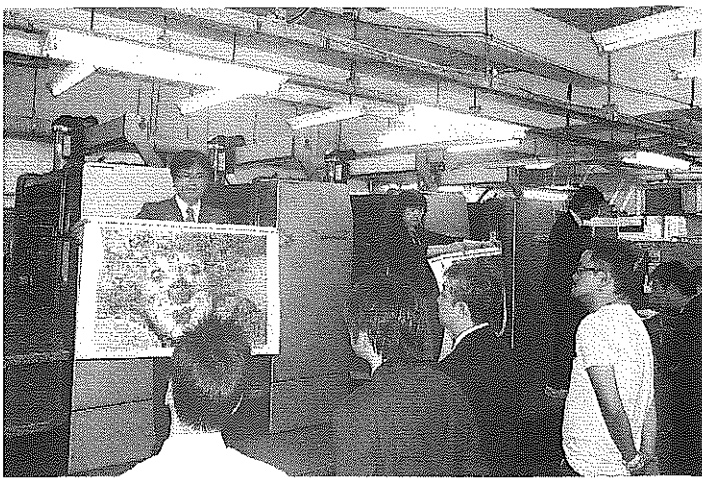
同セミナーは、昨年4月から九州・東京で開催し毎回満席状態になるほど盛況を呈しているもの。大阪では、昨年10月にも、あさひ高速印刷の協力で開催されている。

大阪科学技術センターで行われたセミナーでは、はじめにアグファの神前祐樹大阪支店長が挨拶に立ち、Azura TSによる速乾印刷のメリットと、この日のセミナー内容について紹介した。

続けて、あさひ高速印刷の岡社長は「当社は半年前にAzura TSによる速乾印刷を立ち上げたが、すぐに効果を実感した。そして、それを継続的に実践できるのがこの速乾印刷の魅力」と述べ、セミナー後に披露するその技術に自信を示した。

また、アグファの松石社長は、浅くて細かな砂目により水を絞れ、適正な水量・インキ量で印刷できるなどのAzura TSの特長について改めて紹介した上で、「昨今の印刷業界の経営環境を踏まえると、現場の改革を行うことが不可欠である。1日わずか10〜15分のメンテナンスにより、油性インキでの速乾印刷を実現できる。また、これにより印刷機のベストな状態を社員が認識できるようになり、さらに社員の印刷に対する意識も変わってくる」と述べ、速乾印刷への取り組みがもたらす相乗効果にも言及した。

このあと、「3分で乾燥できる速乾印刷」を約25年前から実践し、印刷技術コンサルタントとして活動する(株)東京テックプラスの加藤隆行社長による講演が行われた。



スーパーユポへの印刷で速乾印刷の実力を披露

加藤社長は、「数値化できるものが技術」と前置いた上で、そのための自社メンテナンスによる現場力向上の必要性を説き、ローラー調整、湿し水管理、適正濃度での印刷といった3要素のバランスを数値管理すること

で乾燥時間短縮と汚れのない印刷が可能になるという理論を具体的に解説。それらがもたらす生産性向上やインキ、ヤレの削減による「印刷経営の再構築」を強く訴えていた。

セミナー終了後は、バスであさひ高速印刷へ移動。ハイデルベルグ社製菊全判4色機(油性) + アズラTSによる速乾印刷の実演が行われた。実演では、スーパーユポへの重い絵柄の印刷をはじめ、5分間だけインキを置いてのどん天によるコート紙への両面印刷などが行われ、機長がインキ壺を触らずにCIP3活用による素早い色出しを披露した。また、印刷後わずか5分後の断裁などの実演が行われ、参加者はその速乾性の高さに高い興味を示していた。

新群馬工場の緑化計画 「都市開発版SEGES」認定 凸版印刷

凸版印刷(株)(金子真吾社長)が2014年3月の竣工を目指して建設を進めている新群馬工場(仮称)(所在地/群馬県邑楽郡明和町)の緑化計画が、財団法人都市緑化機構による「社会・環境貢献緑地評価システム

(SEGES: シージェス)から「緑の保全・創出により社会・環境に貢献する開発事業(都市開発版SEGES)」として認定された。工場敷地内における緑化計画としての認定取得は初めて。

新工場では、「地域の生態系ネットワークの生産拠点」をコンセプトに、敷地内の緑化計画を立案。敷地全体に高木で約500本、中木で約2000本、低木で約5000本を植樹して30%以上の緑地率を確保。また、雨水を有効利用した湿地エリアの「レインガードン」を採り入れ、雨水が地面に浸透する透水面積率で約50%を目指す。